

2018 8/28

No.2073

毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



国的重要無形民俗文化財に指定されている盆行事「三戸のオショロ流し」が16日朝、三戸海岸（三浦市初声町三戸）で執り行われた。竹と麦わらで作った全長約5メートルの船1隻を、少年たちが海に送り出した。



contents

視点・点描

「大槌希望新聞」に学ぶ

3

国際

高関税の応酬で日本は敗者か
“地経学”時代を生き抜く

4

まつりごと点描

「沖縄の心」届かぬまま
翁長知事死去、戦後73年

8

くらし2018

上限設定に「高止まり」の懸念

10

アジアの風

「中国製造2025」が招く悪運

12

NNAアジア経済リポート

13

神奈川景気データファイル

14

神奈川景気データファイル

15

事務局だより

◇2018年8月定例講演会

2018年8月30日(木)

午後1時30分～3時

ホテルニューグランド本館2階

「レインボーボールルーム」

講師は慶應義塾大学准教授の
磯崎敦仁さん

演題は「激動の北朝鮮情勢と
日本」

◇2018年9月定例講演会

2018年9月19日(水)

午後1時30分～3時

ホテルモントレ横浜3階「ビクトリア」

講師はインサイドライン編集長
の歳川隆雄さん

演題は「自民党総裁選と日本
の行方」

視点



「大槌希望新聞」に学ぶ

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町の小中一貫校・町立大槌学園の6年生が、「希望新聞」作りに取り組んでいる。震災から7年余り。子どもたちは幼いながら、未来につながる生きる力を育んでいる。

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町の小中一貫校・町立大槌学園の6年生が、「希望新聞」作りに取り組んでいる。震災から7年余り。子どもたちは幼いながら、未来につながる生きる力を育んでいる。

被災が拡大、町の人口の1割近く1200人以上が死亡あるいは行方不明となつた。全半壊した家屋は4100棟以上に上つた。

被災した町立4小学校に加え中学と統合し開校した大槌学園は2016年度、義務教育学校に移行した。「ふるさと科」が創設され、「地域への愛着」「生き方・進路指導」「防災教育」を3本柱にしてほしい」

「大槌で頑張っている人の共通点を見つけよう」。担任の先生が授業のテーマを投げ掛ける。

まず、苦労したこと。「家族を失った悲しみは消えない」「自分

のやつてていることは役に立たない」。統いて、願い。「笑顔や希望が届けたい」「ふるさとを心つながる場所にしたい」「思いが伝わつ

いる。「希望新聞」作りも「ふるさと科」の実践で、7月に盛岡市などで開かれたNIE（教育に新聞を）の全国大会特別分科会として公開された。

6年1組の36人が、地元で復興に関わる人たちを紹介した新聞記事約30本から興味を抱いた1~2本を選び、授業を開いた。スポーツや音楽、演劇、地域活動など多様な取り組みに自分の思いを重ね合わせ、それぞれの「大槌希望新聞」を2学期に作る。

被災と向き合い、地域のために汗を流す人たちの姿を伝える新聞記事を読み込み、悲しみや苦しみがあるからこそ願いや努力につながる生き方を学び合う。

喪失から再生へ、世代を超えて体験を伝承する。防災教育のあるべき形の一つが、ここにある。

（神奈川新聞社報道部編集委員

藤塚 正人